

絆を語る

第五回 青山花茂本店

写真・岡村昌宏 文・山下シオン



『青山花茂本店』の店内にディスプレイされた胡蝶蘭。本来は、まっすぐに上へと生えていく習性の胡蝶蘭だが、観賞用や贈答用のニーズが増えた時代とともに改良され、しな垂れるように咲いているのが象徴的な姿となった。日々、最高品質の生花を仕入れている。

青山花茂本店

東京都港区北青山3-12-9
電話:03-3400-0871
営業時間:10:00~18:00
定休日:無休(年始3日を除く)
<https://www.aoyamahanamohonten.jp/>

花の本当の美しさを
体感していただくために、
最高の品質の花を最高の状態で
お届けする。そのために
『青山花茂』は、変革を続けていきます。

——北野雅史
代表取締役社長

中:青山通りに面した本店のビルに刻まれた創業年。
左上:透明のガラスの容器に入れて陳列する花々は、
毎日水を入れ替える。花の鮮度管理を徹底してコン
ディションを保ち、お客様の手もとに届いた時に美
しい姿を楽しんでいただけるように努めている。



1990年に創業し、代々受け継がれながら生花店を営んできた『青山花茂本店』は、1990年代に始めたダイナースクラブの「洋蘭頒布会」は、当時は憧れの花だった蘭が家庭でも楽しめるようになったと会員から好評を得て大ヒット。生花の業界を活気づけました。常に良品を調達するために生産者を開拓し、新たな商品開発を続ける同社とダイナースクラブとの絆とは？

創業以来116年、宮内庁御用達の老舗『青山花茂本店』は、最高品質の花だけを仕入れ、鮮度管理を徹底することで顧客からの信頼度が高い生花店である。

ダイナースクラブとは、「フラワーギフト」が世の中に定着し始めた頃から、新しいサービスをつくりだし、販路を

拡大してきた。業界の他社も追随したという両者が協力し合った試みについて、5代目の代表取締役社長・北野雅史氏に伺った。

——ダイナースクラブとの歩みの中で、最も印象に残っている試みは何ですか？

「ダイナースクラブさんと弊社の先代社長である父が始めた『洋蘭頒布会』です。それまでは高嶺の花だった蘭が家庭でも楽しめるようになったのが、好評を得た大きな要因だったと思います。元来、生花店は地域性が高い商売ですが、この頒布会用にフリーダイヤルのダイナースクラブ特別回線を設置したことで届け先が全国に広がっただけでなく、さらには海外への配送の要望も増え、それを実現させました。さらに蘭の生産者の開拓や新商品の開発にも役立ち、蘭だけでなく、



花鉢の生産者を見出すこともできました。結果的には商品とサービスのクオリティを高めることに繋がったのです。ダイナースクラブさんと会員の皆さまには鍛えていただいたと思っています」

——時代とともにニーズも変わっていくと思いますが、何が大切だとお考えですか？

「まだオンライン販売が一般的でなかった2000年頃にダイナースクラブさんと一緒にいち早くホームページをつくったことで、オンライン化の礎を築くことができました。オンライン販売の対応がマストの時代となった今、サイトの質やコンテンツの内容が問われますので、お客様の要望に対応できるかが分かれ目ですが、これまでの経験が大いに役立っています。今後も、品質の高い花についても情報を発信していきます。良質の花は新鮮な野菜と同じで、シャキシャキしていて、美味しそう、なんです。弊社では生産者から良質の花だけを入荷できるように信頼関係を築いてきました。そして、最高の花が店に届くと、毎日水替

青山花茂本店からの特別優待

青山花茂本店が提供する「本物の花体験」をぜひこの機会に。12月から5月まで、美しい鉢植えの花々が季節の風情をお届けします。この頒布会をお申し込みのダイナースクラブ会員様には、季節の切り花を最終月(2021年5月)にお贈りします。詳しくは本誌89ページをご覧ください。※プレゼントの切り花は青山花茂本店が提供します。



写真はイメージです。